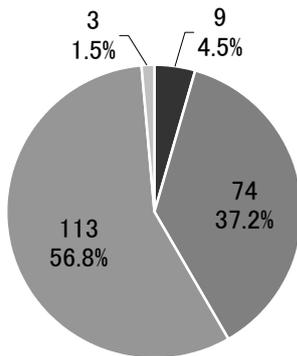


1. 基礎教育

1) 受講の体制



- 企業が会議等で受講時間を確保している
- 企業がMR個人に業務時間内に受講するよう指示している
- MR個人の自主性に委ねている
- その他

(n=199)

2) 企業が確保している月間平均受講時間

回答企業数	9社
月間平均受講時間	4.3時間

【その他】を選択した3社からの具体的な記載内容は以下のとおり。

自主性にゆだねているが、随時進捗はチェックし、未修了者に対するリマインドメールを送付している

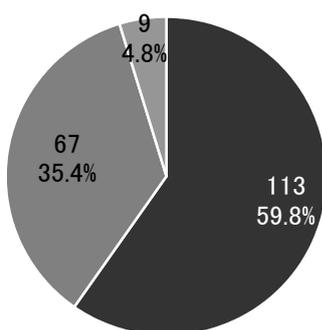
企業がMR個人に受講するよう指示しているが、業務時間内の制限はしていない。

派遣元としては3だが配属先により1や2のようなケースもあるらしい

昨年からの変化は見られなかった。

2. MRおよび管理職以外のMR認定取得者に対するMR学習ポータル利用

1) 支援の範囲



- 全員に付与または利用料の全額負担している
- 希望者に付与または利用料の全額負担している
- 全員に付与しない(利用できないようにしている)

(n=189)

ほとんどの企業でMRおよび管理職以外のMR認定取得者に対して、MR学習ポータルに係る費用を負担して利用可能にしていることが分かった。

2) 対応の理由

【全員に付与または利用料の全額負担】を選択した113社のうち

具体的記述のあった101社の内容をカテゴリーに分けて集計した結果は以下のとおりです。

合計	101
基礎的知識の維持・向上のため	31
キャリア・異動対応	29
会社方針・業務指示	14
認定の維持・更新に必要なから	8
本人意思・自主性重視	8
学習機会の公平性	7
制度運用・管理上の理由	3
福利厚生の一環	1

【希望者に付与または利用料の全額負担】を選択した67社のうち

具体的記述のあった62社の内容をカテゴリーに分けて集計した結果は以下のとおりです。

合計	62
本人意思・自主性重視	28
キャリア・異動対応	22
基礎的知識の維持・向上のため	4
「全員に付与しない、理由：必要としない」に該当	3
認定更新に必要なから	2
学習機会の公平性	1
制度運用・管理上の理由	1
会社方針・業務指示	1

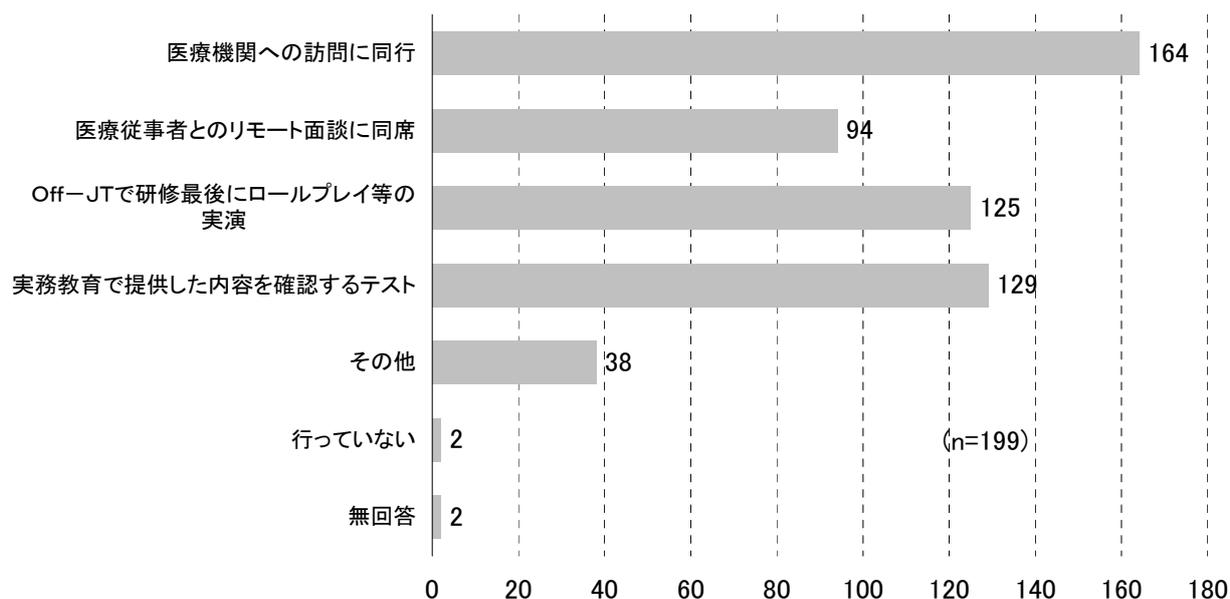
【付与しない(利用できないようにしている)】を選択した9社が

具体的に記述した内容をカテゴリーに分けて集計した結果は以下のとおりです。

合計	9
必要としない	6
「全員に付与または利用料の全額負担」に該当	1
業務負担軽減	1
該当者なし	1

3. 実務教育

1) 成果確認方法

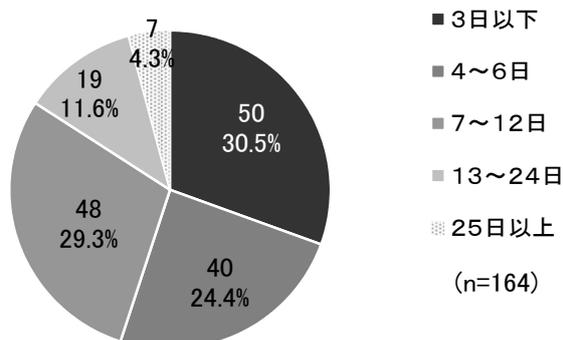


「医療機関への訪問に同行」または「医療従事者とのリモート面談に同席」を選択せず、【その他】を選択した15社が記載した具体的な内容をカテゴリーに分けて集計した結果は以下のとおりです。

合計	15
本人・上長・派遣先へのヒアリング	7
「医療機関への訪問に同行」に該当	5
アセスメント実施	2
自己評価	1
「実務教育で提供した内容を確認するテスト」に該当	1

「医療機関への訪問に同行」または「医療関係者とのリモート面談に同席」と実地で成果確認が行っている企業数は、165社(82.9%)であった。高い割合で実地での成果確認が行われていることが分かった。その一方で、まだ実施されていない企業もあった。2026年度制度改定以降は、実地での成果確認が求められます。今年度中に社内の実施体制の整備を完了するよう尽力いただきたい。

2) OJTの年間平均日数



昨年と大きな変化は見られなかった。

4. 社内制度として採用している資質向上策

MRが医療関係者から信頼されるパートナーになることを目指して採用している社内制度についてお聞きしました。

コメントには142社から記載があり、カテゴリー分けして集計した結果は以下のとおりです。

合計	142
なし	61
領域・専門性強化策	28
上級MR・社内認定制度	17
研修強化策	14
追加の役割付与	3
自己啓発・資格取得支援	3
専門部門・チームの設置	1
その他	15

もっとも多かった「領域・専門性強化策」のカテゴリーについて、実際のコメントを記載します。

専門MR制度

希少疾患領域に関する専門性の高いMRを選抜育成し、その中から特に優秀者を社内認定している。

医療制度に関する専門MR制度

領域専門試験、医療制度試験。成功体験の社内SNSでの共有。

OSMR(整形外科知識に精通したMR)の設置

外部の専門制度プログラムを利用し、合格者を社内で専門MRとして認定している

領域事業部制による専門職MR体制。

医療関係者から信頼されるパートナーになるために、専門領域に特化した営業組織の構築と知識向上のための領域研修を実施している。また、他の専門領域については社内のeラーニングシステムで学ぶことができるようになっている。

ディテールスキル診断(スコア化)の導入(外部ベンダー連携)。目的:顧客エンゲージメントの向上、提案力の向上。FY25に領域エキスパートMR認定を導入予定。

スペシャリストセールス制度

弊社の主要な領域であるニューロ、オンコ、免疫ロジー領域の3領域において、領域専門性を高めるための専門MR認定試験制度を導入している。

知識定着度確認試験、オンコロジー領域知識レベル確認試験

弊社では、疾患領域、エリアマーケティング、医療制度の3つのカテゴリに特化した、エキスパートMRを認定する制度を導入しています。この認定にあたっては、社内試験による選考を実施しています。

製品に特化した準専任担当者を置き、医療関係者のニーズに応え、適切に情報提供ができる体制を目指している。

領域制MR制度

特定の疾患領域に専門MRが存在する

領域別MRでカテゴリーを分けて活動をして、専門的な知識をもって医療従事者と面談を行っている。

日本循環器学会学術集会 循環器病アドバイザー

領域別MR制度

専門MR制を導入している

職級アセスメントシステムの実施 専門MR & Remoteチームの設置

階層別の専門MR制度、外部資格の取得援助

希少疾患領域を担当するMRとして相応しい態度・知識を身につけられるよう、毎月研修の機会を設け、全員が受講している。

自社疾患領域の自己研鑽を推奨する制度を導入しています。(社外で提供されているe-learningの提供、資格認定制度受験補助)社内学習ポータル(スキルコンテンツ、マインドコンテンツ)の利用

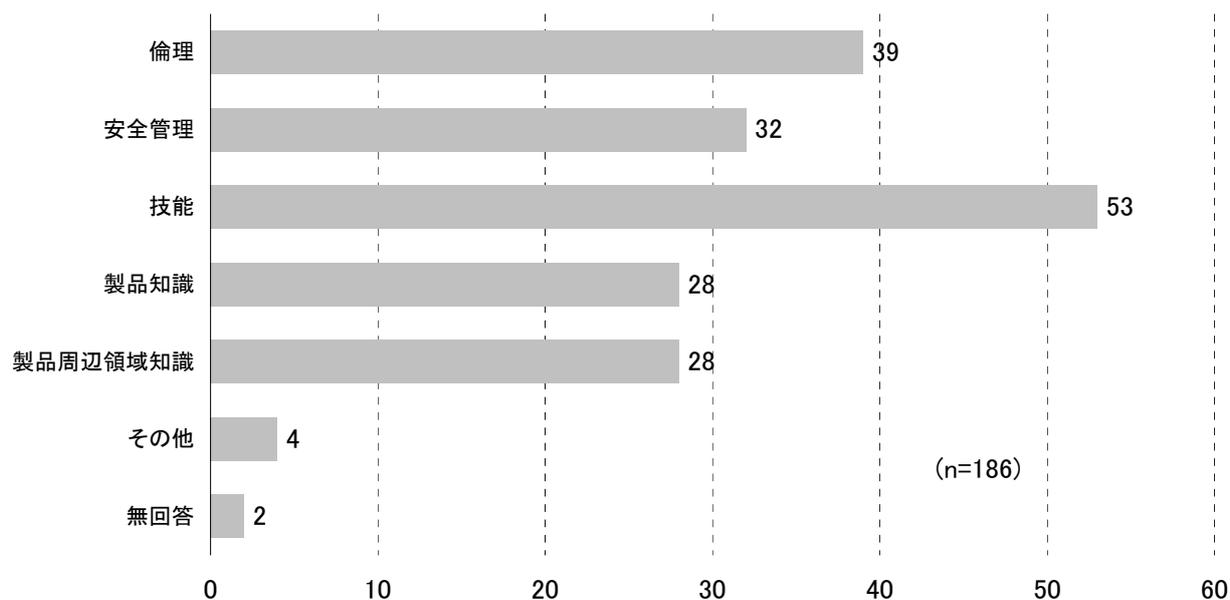
領域別MR制度、外部組織の疾患領域の知識認定制度の活用

専門MR制度

医療従事者を講師とした社内向け勉強会の開催

弊社は製品の数が少ないので、専門性を高めるために関連学会への積極参加(聴講)及び、聴講結果の報告書を徹底させる制度を導入しております。また、MR活動に限定されず、職級や賞与の考課項目に資質を問う項目を設けております。

1) 実務教育でもっとも注力した科目



【その他】には4社から具体的な記載がありました。実際のコメントは以下のとおりです。

製品・周辺知識ならびにコミュニケーションスキルを融合させ、「どう伝えるか」より「どう伝わっているか」を意識した症例フォローロープレを各営業所の研修プロモーターにリードさせ実演ならびにお互いへのFBを実施した。(トレーナーも可能な限り同席)

すべての科目に対して目的や課題があるため「1つの科目」に限定するものでないことから、その他を選択しています

設問から1つだけは選ばませんでした。

医療制度、医療政策

2) もっとも注力した科目の具体的な内容

179社からコメントの記入があり、科目ごとにカテゴリーに分類し集計した結果は以下のとおりです。
なお、コメントには複数のカテゴリーが含まれることもあり、合計は回答した企業数とはなりません。

【倫理】にもっとも注力した企業が行った内容

合計	39
法・規約・コード	27
患者志向	3
エチケット・マナー	1
MRの使命	1
方法のみ、内容の記載なし	5
コメント未記入	2

【安全管理】にもっとも注力した企業が行った内容

合計	32
情報収集・報告方法	9
安全性情報Update	4
特定製品の安全性情報・RMP	4
副作用発生時対応等	2
基礎知識	1
回収対応	1
特殊症例	1
方法のみ、内容の記載なし	9
コメント未記入	1

【技能】にもっとも注力した企業が行った内容

合計	64
面談・ディテールリングのスキル	26
プレゼンテーションスキル	7
対人コミュニケーションスキル	7
セリングセリング	6
製品知識	3
コーチングスキル	2
スキル全般	1
現場で活用できる知識	1
診療報酬	1
質問スキル	1
オムニチャネルでのMR活動	1
症例ベースの対人コミュニケーションスキル	1
方法のみ、内容の記載なし	6
コメント未記入	1

【製品知識】にもっとも注力した企業が行った内容

合計	32
製品知識全般	14
新製品	5
最新論文・データ	2
適応疾患関連の診療ガイドライン	1
有効性と安全性のバランス	1
自社製品関連の学会発表内容	1
使用上の注意など	1
特定の疾患知識	1
安全性	1
作用機序	1
新製品、関連疾患	1
方法のみ、内容の記載なし	3

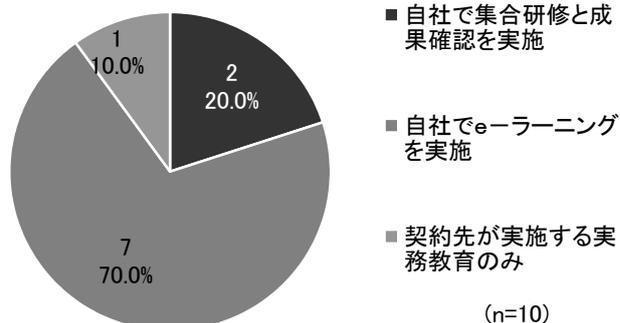
【製品周辺領域知識】にもっとも注力した企業が行った内容

合計	34
適応疾患・病態	8
診療ガイドライン	4
医療制度	3
適応疾患に関する診断・治療	2
診療報酬制度	2
新製品に関連する領域全般	2
専門知識	1
作用機序、患者動向	1
関連論文最新情報	1
資材の提供方法	1
製品知識	1
患者・医療関係者インタビュー	1
医療行政	1
競合品	1
学会最新情報	1
製品に関連する領域全般	1
その他	1
方法のみ、内容の記載なし	2

継続教育(実務教育)では、技能にもっとも力を入れたと回答した企業が多かった。教育研修の内容を踏まえると、面談・ディテリングのスキルが最も多く、具体的内容のあった64のうち約40%を占め、4位までは対人スキルが占めた。

5. CSO企業が行う実務教育

契約先に派遣中のMRに対して実務教育を行っているかをお聞きした結果は以下のとおりです。



契約先の実務教育を受講し、成果確認が行われたMRが実務教育の修了認定を受けるのが一般的と考えられるが、それに加え、派遣元が独自で教育研修を行っていることが分かった。より資質の高い人材を育成し、医療に貢献しようとする企業姿勢の表れと評価できると考えられる。

自社で集合研修と成果確認を行っている企業からの実際のコメントは以下のとおりです。

クライアント企業との面談を元に派遣MRの強み・弱みを把握し、よりレベルアップできる研修を実施している。内容は個人によってカスタマイズしている。

MRに共通して取り組む内容でリモート面談、コンプライアンス等の集合研修を実施し、理解度をアンケートで確認している。